

ダイバーシティ・オンラインカフェ 開催報告

分野を超えた女性研究者同士の交流、若手研究者や、研究職に関心のある学部生に向けたロールモデルの発信を目的に、女性研究者が自由に語り合うオンラインカフェを開催しました。

【日時】令和6年9月26日(木) 14:30-15:30

【場所】Zoom

【参加者】10名

【内容】海外留学・研究の実現について、2人の話題提供者からお話ししていただき、参加者と自由に語り合う。

【話題提供者】

医歯薬学総合研究科 生命薬科学専攻 助教 吉田さくら
多文化社会学部 多文化社会学科 助教 福田紗耶香

【開催内容】

今回、海外留学・研究の実現をテーマにして、オーストラリアでの国際共同研究のご経験のある吉田さくら先生、オランダでの海外留学のご経験のある福田紗耶香先生にご協力いただき、オンラインカフェを開催した。最初に参加者全員で簡単な自己紹介をして、各々の海外経験や関心事を共有した。教員の参加者の中には、長期あるいは短期の海外経験のある参加者がいた。学生の参加者の中には、今後留学を考えている人が多く、語学の勉強の仕方や、留学先の選定のことなどに関心があるとのことだった。

吉田先生の専門は薬学で、必須微量元素であるセレンがヒトの体内に入った際の代謝に関する研究に取り組まれている。科研費・国際共同研究強化に採択され、2023年～2024年にかけて14ヶ月、オーストラリアン・シンクロトロンでの実験を行うため、オーストラリアのアデレードに長期海外出張という形で研究滞在された。そのため、長崎大学の業務をオンラインで行いながら、一方でアデレード大学の研究室で実験をされていた。

福田先生の専門は比較教育学と地域研究で、オランダにおける多文化状況に着目し、教育格差是正のための保育制度に関する研究に取り組まれている。オランダには学部生の頃から関心があり、2015年から2016年にライデン大学に交換留学をした。学振の若手研究者海外挑戦プログラムを活用し、2021年から2022年の4ヶ月間は、ユトレヒト大学に滞在した。この2回目の滞在は、コロナ禍のため、当初の予定から大幅な変更を余儀なくされた。

参加者からは、渡航前にどのような語学学習(英語のスピーキング、英語と第2外国語の両立の仕方など)に関する質問、留学先の選定(今自分が学んでいる分野と異なるものを海外で学んでも良いか?)などの質問があった。また家族を帯同しての海外留学についての質問もあった。それらに加えて、話題提供者のお2人からは、滞在の準備としてどのように住む場所を決めたのか、滞在中の困った経験などについてもお話していただいた。参加してい



る教員の中にも、海外での長期研究滞在の経験や、短期留学の経験などが共有された。最後に、海外に滞在することで得たダイバーシティ推進に関する気づきとして、日本とは異なりもっと緩やかに働く人々の姿のお話などがあった。

参加者からの感想：

- 意外と自分と同じ悩みを持たれていることが分かり、安心した。留学に行く目的がなく、不安だったが、行きたい気持ちが大きくなった。
- 何がきっかけで海外に留学に行くか、またその時期は人それぞれだということに気が付いた
- 英語はできるのが普通なのだと分かった。今回は留学がメインのお話だったので、アカデミアに残ることに不安はなかったかなどの回があれば参加したいと思った
- 先生方の留学時の生活のことや、留学までの準備等をお伺いできて良かったです